

# (案)

## 第 2 期鯖江市環境基本計画について—概要版—

### 1. 計画策定の趣旨

鯖江市では、人と生きものが共に暮らせるまちを未来へ引き継ぐため、持続可能で良好な環境を市民みんなが享受できるよう、総合的に環境保全を進めることを目的として、2000 年（平成 12 年）3 月に鯖江市環境基本計画（以下、「旧計画」）を策定しました。その後は、社会経済や環境の情勢の変化を踏まえ 3 回にわたり改定を行い、環境施策を総合的、計画的に進めてきました。

第 2 期環境基本計画（以下、「本計画」）は、旧計画が 2025 年度（令和 7 年度）で期間満了となることを受け、多様化する社会情勢や環境を取り巻く時世の変化に対応した施策を進めるべく策定するものです。

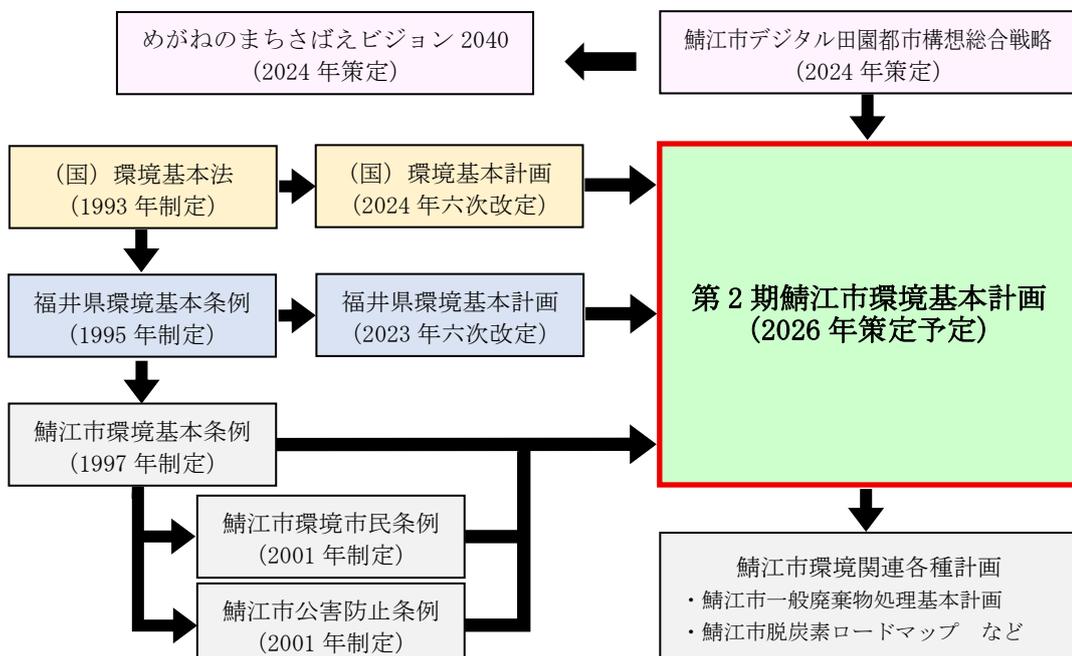
### 2. 計画の期間

本計画の期間は、2026 年度（令和 8 年度）から 2040 年度（令和 22 年度）までの 15 年間とし、環境関連法の改正や社会情勢の変化等に合わせて、概ね 5 年毎に見直し、必要に応じて改定を行います。



### 3. 計画の位置づけ

本計画は、各種法律・条例・計画・宣言等との整合を図りながら、「鯖江市デジタル田園都市構想総合戦略」を上位計画としました。あわせて、「めがねのまちさばえビジョン 2040」に掲げられた理念や方向性を踏まえ、本市の環境保全を推進するための基本的指針として位置づけられます。



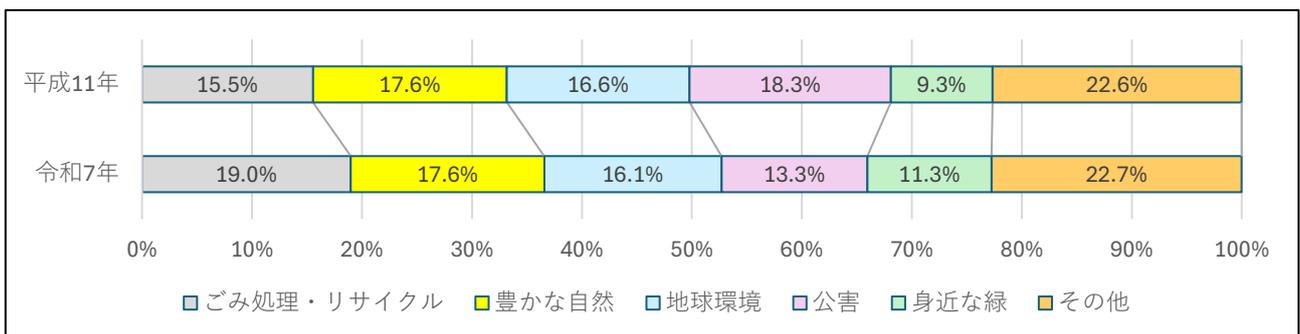
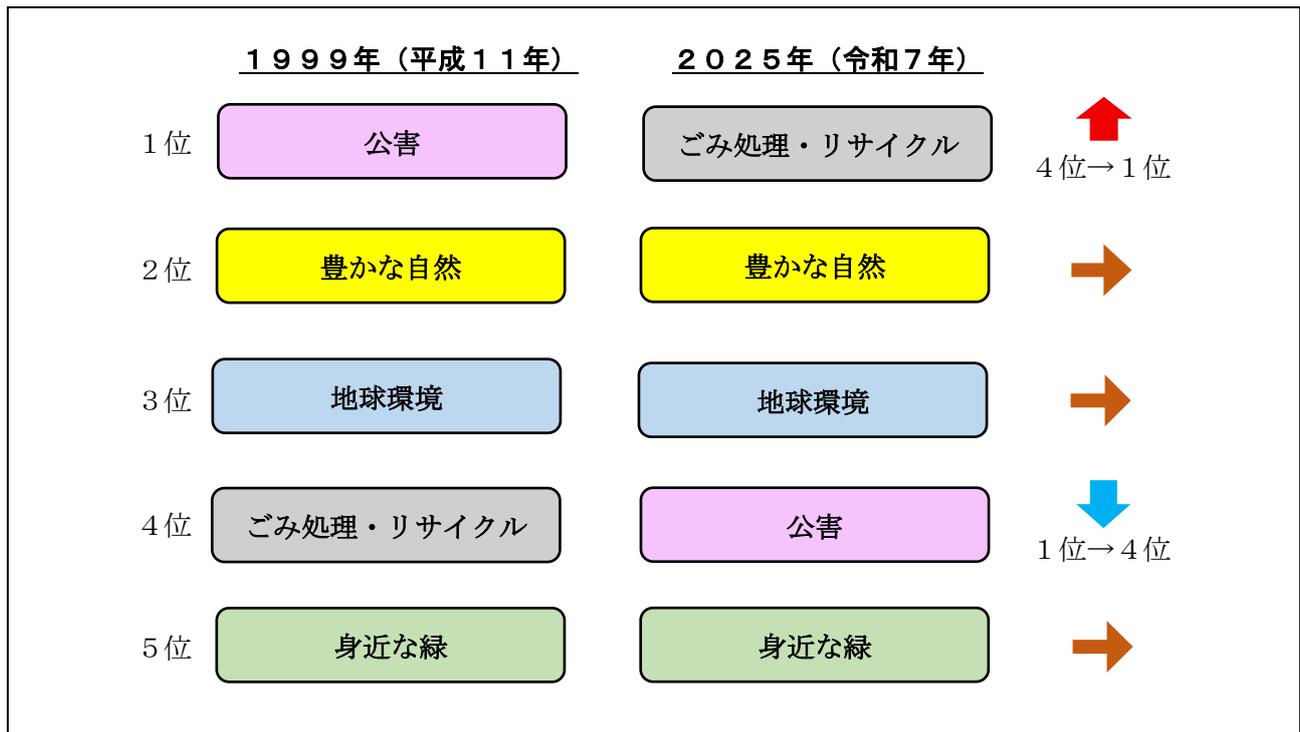
## 4. 環境に対する市民意識

市民の意見を本計画に反映させるため、令和7年8月から9月にかけて環境に関するアンケートを実施しました。

調査対象	調査対象数	回答数	概要
市民	1,000 通	418 通	無作為抽出し郵送紙または Web にて回答
小学生	550 通	550 通	環境講座対象者へ調査



### ●環境のイメージ



「環境」という言葉から市民が真っ先に思い浮かべることとしては、旧計画策定時（25年前）のアンケートでは「公害」や「豊かな自然」といった回答が多くなっていました。一方、令和7年のアンケートでは「ごみ処理・リサイクル」が最も多く、次いで「豊かな自然」「地球環境」が続いており、より身近なテーマへの関心が高まっていることがうかがえます。

市民の意識が高いこれら身近な課題についても、今後一層力を入れて取り組んでいく必要があります。

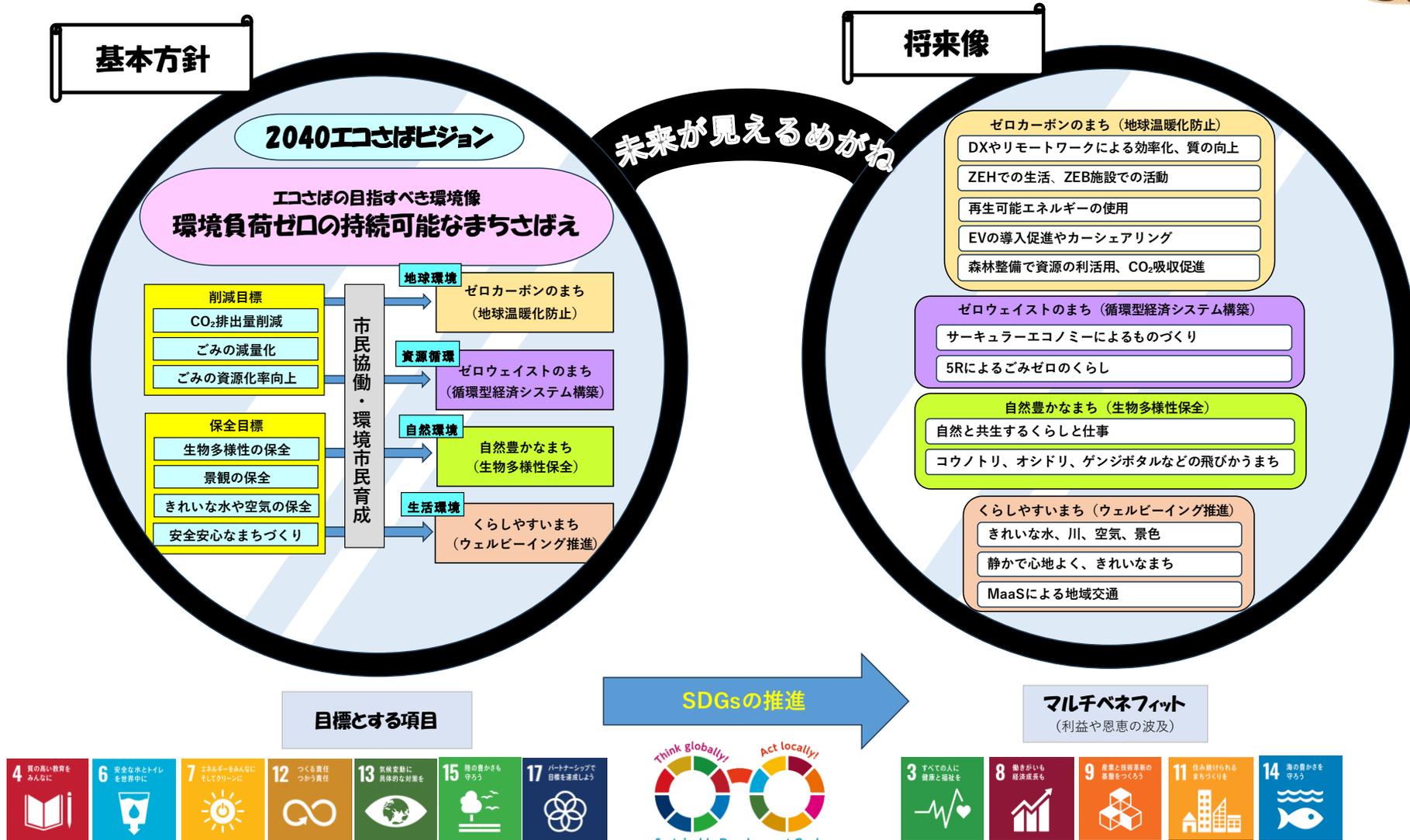
## 5. 計画の体系

1. 「未来が見えるめがね」には、左に本計画の基本方針である 2040 エコさばビジョン、右にその将来像を示しています。
2. 本市は 2019 年 7 月に「SDGs さばえ宣言」しています。SDGs は本計画と密接な関わりを持っています。  
推進活動により目標とする項目（左）を達成すると、マルチベネフィット（右：利益や恩恵の波及）が得られます。



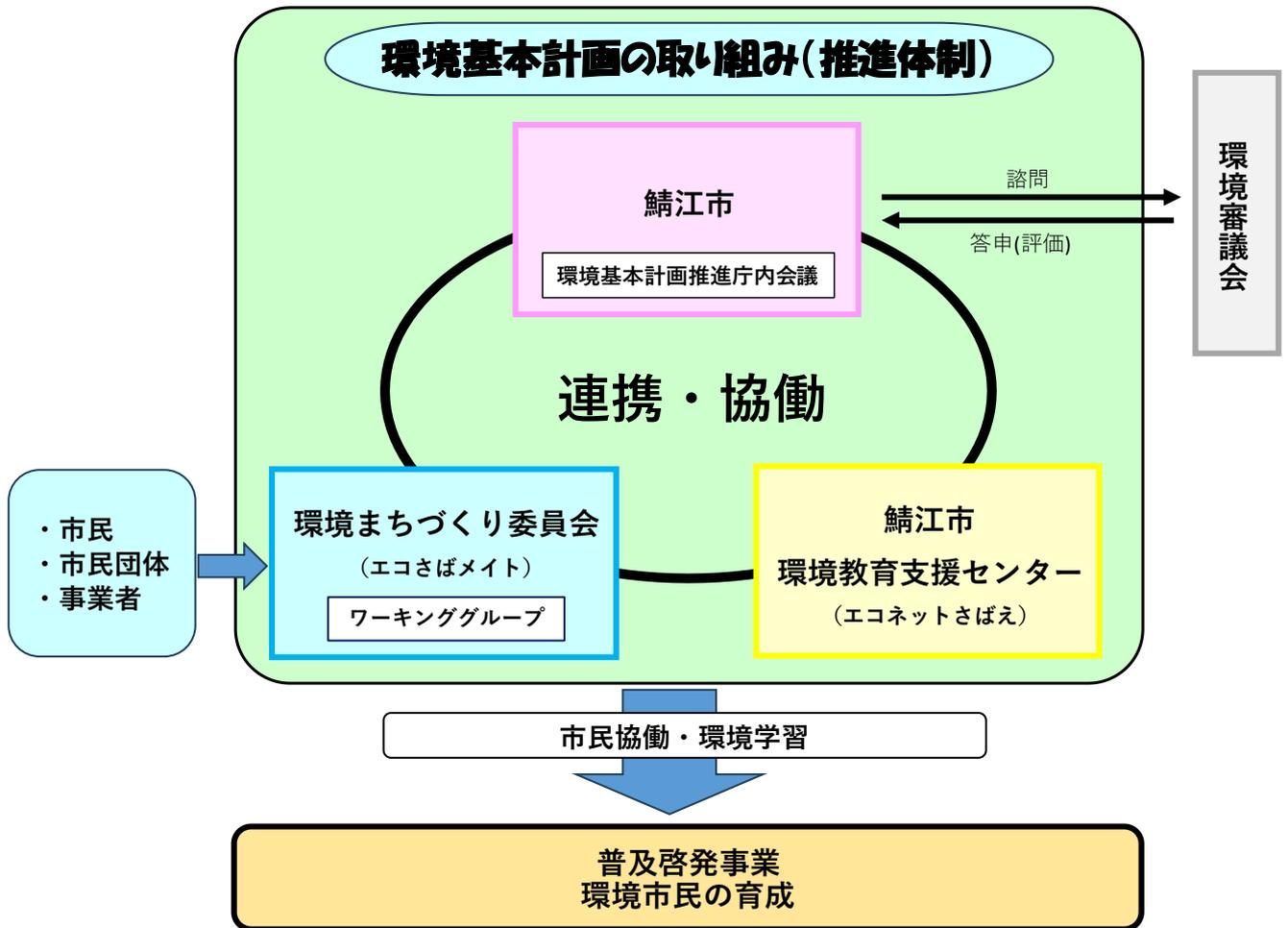
「エコさば」って？

鯖江市における環境に関する活動を「エコさば」といいます



## 6. 計画の推進体制

「鯖江市」「環境まちづくり委員会」「鯖江市環境教育支援センター」の3者が連携・協働し、本計画の推進を図ります。本計画の変更に関する事項は、環境審議会に諮問し、答申を得るものとします。



## 7. 計画の指標

削減目標の項目	CO <sub>2</sub> 排出量削減		
	数値目標		
指標項目	策定時 (2022年度)	目標年度 (2030年度)	目標年度 (2040年度)
年間CO <sub>2</sub> 排出量	563 千t-CO <sub>2</sub>	322 千t-CO <sub>2</sub>	138 千t-CO <sub>2</sub>

※本表に示すCO<sub>2</sub>排出量は国の公表データを用います。このデータは公表までに概ね2年のタイムラグを要することから、策定時の数値を2022年度（最新の値）とします。進捗評価についても、国の公表データの最新の値を用いて行います。

削減目標の項目	ごみの減量化		
	数値目標		
指標項目	策定時 (2024年度)	目標年度 (2030年度)	目標年度 (2040年度)
1人1日当たりごみ排出量	828 g	752 g	672 g

削減目標の項目	ごみの資源化率向上		
	数値目標		
指標項目	策定時 (2024年度)	目標年度 (2030年度)	目標年度 (2040年度)
ごみの資源化率	13.5 %	17 %以上	20 %以上

※本表に示す資源化率は（資源化量／総排出量）×100により算出